

Digest of Science of Labour

労働の科学

June

2 0 2 5

Vol. 80, No. 6



紙の時計2「標識燈と足」／本城義雄

特集

子育ての輪を地域に広げて
人生を後回しにしない子育てを

特別インタビュー 佳山奈央

巻頭言 サルマカンドの思い出
福島章

連載

凡夫の安全衛生論議⑬
福成雄三

銀行と労働⑧
坂本恒夫

タイプライターの歴史とタイピスト⑰
三宅章介

労働の科学

June
2025
Vol. 80, No. 6

巻頭言

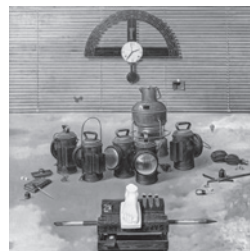
俯瞰 (ふかん)

サマルカンドの思い出

1

福島 章 [大原記念労働科学研究所 常務理事]

表紙作品：紙の時計2「標識燈と足」／本城義雄
制作年：2021年
サイズ：1620×1620mm
材質：油彩・キャンパス
出品：第95回国展
表紙デザイン：大西文子



子育ての輪を地域に広げて 人生を後回しにしない子育てを

特別インタビュー

[ラヴィベル株式会社代表] 佳山 奈央 4

Series

つれづれなるままに
女優沢村貞子と築地 佐藤 友美子 10

「#教師のバトン」で伝わる (43)
教職員の過酷な勤務環境 藤川 伸治 15

タイプライターの歴史とタイプスト (17)
—学習指導要領と愛知県立春日井商業高等学校における
タイプライティング学習の展開—
..... 三宅 章介 18

Column

銀行と労働 (8)
 リスク潜む<大谷翔平時代>の働き方 坂本 恒夫36

凡夫の安全衛生論議 [疑問と思い込み] (13)
 メンタルヘルス問題について考える⑥
 ~ストレスチェック義務化を活かせるか~ 福成 雄三38

KABUKI

彦山権現誓助剣

歌舞伎で生きる人たち その廿七——花の影 息ひそめては 身に宿す 湯浅 晶子40

労研アーカイブを読む (112)

Safety Firstと安全第一 (3)

—ゲーリー製鉄所— 椎名 和仁42

BOOKS

『心理学の教科書 行動の背景がわかればもっと面白い!』

最新の知見を広く学べる一冊 岸田 孝弥51

ますい 『魔睡』

鷗外豊熟期の作品 椎名 和仁52

労働科学のページ53

ろうけん川柳63

次号予定・編集雑記 64

サマルカンドの思い出

10年ほど前、中央アジアのウズベキスタンという国に行く機会があった。韓国のソウルを経由して、およそ8時間のフライトで、首都タシケントに着いた。そこで仕事を済ませた後、せっかくウズベキスタンに来たのだから、世界遺産で有名なサマルカンドに行ってみようと思つた。15世紀頃に繁栄したティムール王国の首都である。

ウズベキスタンとサマルカンド間は、「アフランシャブ」と呼ばれるきれいな高速鉄道で結ばれている。ドイツ製だと聞いていたのだが、どうやらスペイン製というのが本当のようだ。その列車に乗って、サマルカンドの地を踏んだ。ティムール王国の王族が祭られているグーリ・アミール廟が有名である。早速歩いてうろ歩いていた時のこと、小さい子供たちをたくさん連れとおばさんが元気な声で私に話しかけてきた。いろいろ話していたのだが、私には「イポニーツ？」という言葉しか聞き取れなかった。どうやら「日本人なのか？」と聞いているらしいので、「ダー」とロシア語で答えてみた。その瞬間、おばさんは周囲にいた子供たちに「集まれ！」と号令をかけたようである。「日本人がいた！この日本人と一緒に写真を撮る！」と言ったようで、いぶかしげな顔をした子供たちが私の顔を見ながらゾロゾロと集まってきた。おばさんは大張り切りで、私にも写真におさまりと身振りをする。そのまま、写真に

りに何か言いながら、向こうに行ってしまった。狐につままれたような話だが、これには理由がある。

タシケントにナヴォイ劇場という有名なオペラハウスがある。1917年に起きたロシア革命の30周年にあたる1947年11月の完成を目指して建設が進められていたのだが、第二次世界大戦が始まったために土台や一部の壁、柱などが作られたままの状態で、工事が止まってしまった。この工事に駆り出されたのが、大戦後、シベリアに抑留されていた元日本兵である。ソ連の捕虜になった日本兵は約60万人と言われているが、そのうちの457人がナヴォイ劇場の建設のためにウズベキスタンに連れてこられた。この日本兵たちは、毎日、決められた時間に起床し、整えた身なりで点呼に並び、整然と隊列を作って作業場へ向かった。黙々とレンガを積み、細かな仕上げの作業を進めた。1日8時間の労働を終えると、また整然と隊列を作って収容所に帰っていったという。1日3000グラムの黒パンと、具のほとんど浮いていない薄いスープを与えられるのみであったが、1947年の10月に劇場を完成させた。イスラム・カリモフ氏は、1991年12月に独立後のウズベキスタン共和国の初代大統領に就任し、以降、2016年に死去するまでの約25年間、大統領の地位にあった。子供のころのカリモフは、ナヴォイ劇場で働く日本兵を見て、「母さん、どうしてあの人たちは、あんなに

きちんとしていたの？」と尋ねたそうである。

お母さんの答えは、「日本人はね、人が見えていなくても真面目に働く民族だそうだよ。イスラム、お前



サマルカンド
グーリ・アミール廟にて

も大きくなったら、日本人と同じように、人が見えていなくても働く人間になりなさい」というものであった。ナヴォイ劇場の舞台袖には、「本劇場の建設には、日本人捕虜の労働が大きく貢献した」と書かれた小さなプレートが、ひっそりと掲げられている。

因果関係はもろろん証明できないのだが、あの元気なサマルカンドのおばさんが私に示してくれた格別の好意は、ナヴォイ劇場と元日本兵に由来するものと思われる。

第二次世界大戦の終了後、ソ連に抑留された日本人のうちの約25,000人がウズベキスタンに送られ、その多くが強制労働で亡くなった。私はタシケントに戻り、79名が埋葬されているという抑留日本人墓地を訪れ、花束を捧げ、先輩方のご苦勞、努力に心からの敬意を表した次第である。

ふくしま あきら
大原記念労働科学研究所 常務理事

福島 章



俯瞰 ぶんかん